

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年8月3日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部5
参加プログラム:	IARU Summer Program	派遣先大学:	シンガポール国立大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界: )		6. 起業
	7. その他( 大学院への進学 )		

派遣先大学の概要

シンガポール最大級の総合大学であり、旧シンガポール大学が1980年に南洋大学と合併したことで誕生した。学部生徒の数は約2万8千人であり、米国有名機関の大学ランキングによるとアジア2位の大学である。

参加した動機

アジア地域研究を専攻しており、大学院は他のアジアの大学へ進学することも検討していたため、シンガポールに短期留学をしたいと考えていました。プログラムを選んだ契機は環境問題を人文科学的視点を中心に扱うという学際的アプローチに興味を持ったことです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

プログラムについての情報が探しづらく、書類提出当日も不足書類があることが分かり、急遽教養学部のアドミニストレーションに証明書を発行して頂くなど、複雑でした。ウェブ・ポータルなどで必要書類を一つ一つ確認しながら応募するのが生徒と運営方双方にとって良いのではないのでしょうか。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

一ヶ月足らずのプログラムであったので、ビザの申請は必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に医療機関を受診する必要はありませんでしたが、アレルギーが心配だったため、抗ヒスタミン剤を持参しました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

加入が必須の東京海上日動の保険及び任意のOSSMAサービスに加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学届を所属学部に出しました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

日常的に英語を中心に学習しているため、留学のために学習することは意識しませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

授業の一環として緑が多い地域も訪れました。虫除けと虫さされ用の薬が大変役に立ちました。

## 学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

プログラムのテーマは動物に焦点をあてた環境問題であり、人文科学的視点から中心にアプローチするという点が特徴的でした。授業は毎日3時間ほどあり、間に10分ほどの休憩がありました。前半は教授のレクチャーが中心で、後半は教授と学生によるディスカッションがメインでした。予習は殆ど必要ありませんでしたが、論文が毎日1-2本、予習用として用意されていました。毎週リアクション・ペーパー(500単語以上)を提出することが義務づけられており、最後は2000単語程度の長文エッセイが課されました。動物園・海洋研究所・動物シェルター・自然博物館なども見学しました。

②学習・研究面でのアドバイス

長文エッセイで扱うテーマは教授と相談して承認をもらうことをお勧めします。教授側も学生の理解度や関心を知る機会なので、オフィス・アワーを活用するなどして積極的にアプローチすることが大事でした。海外では授業中のディスカッションに参加するのが必須なので、積極的に発言することに挑戦すると良いと思います。

③語学面での苦労・アドバイス等

食堂であまり英語が通じなかったため、中国語の良い練習になりました。シンガポールは英語で会話出来れば殆ど困ることはありませんが、中国語学習者は語学力を磨くのに良い環境だと思います。

## 生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

宿舎は21階建ての高層マンションに似たような建物でした。たまたま部屋にはエアコンがついていましたが、全ての部屋にはないようです。洗濯機やキッチンを使用にはあまり困りませんでしたが、wi-fiが部屋まで届かず、インターネット用のケーブルをパソコンにつなぐしかありませんでした(ケーブルのアダプターを現地で購入しました)。インターネット環境は確認してから渡航することをお勧めします。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

ほぼ毎日小雨が降るような気候でしたが、日中は晴れまたは曇りが殆どでした。キャンパスが大きいのでバスを使用して最寄り駅や最寄りのショッピング・センターに行きました。食事は大学の食堂で三食すませることが多かったです(予算は平均\$4SGD)。一ヶ月の短期留学だったため、学費・寮費の支払い以外は現金でした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安を気にすることは特にありませんでしたが、所持品の管理や部屋の鍵掛けは気をつけました。体に負担がかかりやすい食生活・天候だったので、十分に休みをとることを心がけました。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費:75000円、授業料:100000円、家賃:65000円、交通費:5000円、食費:45000円、娯楽費:10000円
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO:100000円、Santander:100000円
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
授業後は基本的にプログラムで一緒だった現地学生や他の留学生と過ごし、観光や勉強を共にした。週末は大学から遠いエリアに行くなどし、時間を有効に活用しました。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
アドミニストレーションの対応がとても迅速だったので、やり取りが予想以上にかなりスムーズに進みました。TAなどが留学生の生活面・体調面の管理を行ってくれたので、大きな問題なく過ごすことが出来ました。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
寮ではWifiが部屋まで届かず、アダプターを購入し、インターネット・ケーブルを通じてしかネットへ接続出来なかったのが少し不便でした。夏期の授業であったため、寮の掃除もあまり入りませんでした。衛生面が少し気になりました(掃除を頼むとすぐに綺麗になりました)。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
アジアの大学へ一度留学することを希望していたので、本プログラムを利用してシンガポールへ留学出来たことは有意義なことでした。思い切って自分の専門外のことを勉強するつもりで、プログラム開始当初は苦勞することを身構えていましたが、予想外にも学際的な視点から授業は展開されており、様々な専門を持つ学生が集まる中で多様な議論も繰り広げられていました。多角的に研究することの意義を改めて実感しました。授業の他にも大学院で勉強したいと思う学術分野の学科も見学でき、シンガポール国立大学も志望校へ入れることになりました。
②参加後の予定
卒業論文の執筆、大学院進学のための準備等

### ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

夏学期と若干被ってしまうのが難点ですが、2度目3度目の留学として他国へ留学を希望する学生には短期で参加出来る良いプログラムだと思います。カリキュラムも入念に組まれており、専門外の学生もきちんと学習出来る内容になっていました。

### その他

#### ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

事前に派遣先の大学のウェブサイトで寮や食堂の詳細を調べるべきです。

#### ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

